

コロナ禍での学会開催ということで、現地開催とオンデマンド配信を併用したハイブリッド開催を予定していたのですが、寒くなるにつれコロナの感染拡大が広がったため、現地開催が中絶となり全てオンデマンド配信によるウェブ開催へと変更になりました。

オンデマンド配信での発表ということでスライド作りや音声の録音など初めてのことが多くとまどうこともありましたが、演題データを学会側に送信後は穏やかに過ごすことができました。自分の発表がどのくらいの人数の方に聞いていただけているのか把握できるシステムがあればもっと楽しめるのではと感じました。

様々な発表がありましたが、今年ならではの講演としては COVID-19 パンデミックと生殖医療についてです。ラットにおける基礎実験では COVID-19 蛋白は精子や卵子、胚には感染兆候を示さないという報告がある一方、ACE 受容体は精巣や卵巣、子宮内膜に存在しており、ACE 受容体を介して COVID-19 蛋白が入り込むという研究報告もあり、着床障害を引き起こす可能性があるとのことでした。結局のところ、ヒトに関してはしっかりとしたエビデンスがそろっておらず、今後の研究が待たれている段階です。終息後の生殖医療に対する考察なども拝聴し、有意義な内容でした。

今後はこのようなウェブ開催の機会が増えるだろうと予想されます。現地に足を運ぶ必要がなくなったことで業務に影響を出すことなく学会に参加でき、聞き逃した箇所を何度でも聞けることがオンデマンド配信の強みであると感じました。

培養士 金森